

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-174145

(P2004-174145A)

(43) 公開日 平成16年6月24日(2004.6.24)

(51) Int.Cl.⁷

A47C 7/64

A47G 25/28

F I

A47C 7/64

A47G 25/28

テーマコード (参考)

3K099

審査請求 未請求 請求項の数 13 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願2002-347121 (P2002-347121)

(22) 出願日 平成14年11月29日 (2002.11.29)

(71) 出願人 000001351

コクヨ株式会社

大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(74) 代理人 100085338

弁理士 赤澤 一博

(74) 代理人 100118245

弁理士 井上 敬子

(72) 発明者 木下 洋二郎

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

コクヨ株式会社内

(72) 発明者 手島 健二

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

コクヨ株式会社内

Fターム(参考) 3K099 BA15 CB14 EA20

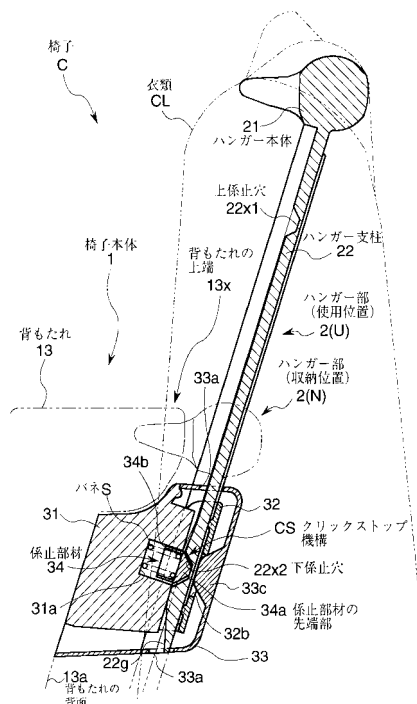
(54) 【発明の名称】 椅子

(57) 【要約】

【課題】衣類等を掛けるよう構成されたハンガー部を有する椅子において、ハンガー部を上昇させて保持させるための一連の操作を片手により簡単な操作で行えるようにする。

【解決手段】背もたれ13を有する椅子本体1と、衣類等を掛けるよう構成されたハンガー本体21を有し前記椅子本体1に取り付けられるハンガー部2を具備する椅子Cにおいて、ハンガー本体21の高さ位置が背もたれ13の上端13xと略同一である収納位置Nと、前記収納位置Nよりも上方に位置する使用位置Uとのいずれかにハンガー部2を選択的に保持する機能を有するクリックストップ機構CSをさらに具備する。

【選択図】 図9



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

背もたれを有する椅子本体と、衣類等を掛けるよう構成されたハンガー本体を有し前記椅子本体に取り付けられるハンガー部とを具備するものであって、ハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置と、前記収納位置よりも上方に位置する使用位置とのいずれかにハンガー部を選択的に保持する機能を有するクリックストップ機構をさらに具備することを特徴とする椅子。

【請求項 2】

背もたれを有する椅子本体と、衣類等を掛けるよう構成されたハンガー本体を有し前記椅子本体に取り付けられるハンガー部とを具備するものであって、椅子本体に、ハンガー部を載置してハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置に保持する部位であるハンガー保持部を設けているとともに、前記収納位置よりも上方に位置する使用位置にハンガー部を保持する機能を有するクリックストップ機構をさらに具備することを特徴とする椅子。

【請求項 3】

前記収納位置において、ハンガー本体を前記背もたれと平面視略隙間なく配置していることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の椅子。

【請求項 4】

前記ハンガー本体を、椅子本体の幅寸法の略全域にわたって設けていることを特徴とする請求項 1、2 又は 3 記載の椅子。

【請求項 5】

ハンガー本体から下方に延伸して設けられ、このハンガー本体を支持するハンガー支柱を 1 本だけ設けていることを特徴とする請求項 1、2、3 又は 4 記載の椅子。

【請求項 6】

前記ハンガー支柱を可撓性のものに構成していることを特徴とする請求項 5 記載の椅子。

【請求項 7】

前記ハンガー本体と前記ハンガー支柱とを一体に形成していることを特徴とする請求項 5 又は 6 記載の椅子。

【請求項 8】

前記使用位置において、ハンガー本体を背もたれの背面よりも平面視後方に位置づけていることを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載の椅子。

【請求項 9】

前記ハンガー部をハンガー取付具を介して椅子本体に取り付けるように構成しているものであって、前記クリックストップ機構が、前記ハンガー取付具に設けた弾性力により進退可能な係止部材と、前記ハンガー支柱に設けた前記係止部材と係合する係止穴とを具備し、前記係止部材を前記係止穴と係合させることにより機能してハンガー部を保持するようにしているとともに、ハンガー部を昇降させる力の一部を係止部材と係止穴との係合を解除させる力に変換するように構成していることを特徴とする請求項 5、6、7 又は 8 記載の椅子。

【請求項 10】

前記係止部材の前記係止穴と対向する部位をテーパ状に形成していることを特徴とする請求項 9 記載の椅子。

【請求項 11】

最も下方に位置する前記係止穴の下縁部を、この係止穴の上縁部及び他の係止孔の下縁部と比較して、より隆起させた形状に構成していることを特徴とする請求項 9 又は 10 記載の椅子。

【請求項 12】

最も下方に位置する前記係止穴の下縁部を、テーパ状に形成していることを特徴とする請求項 11 記載の椅子。

【請求項 13】

高さ位置の異なる複数の使用位置を設定していることを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10 又は 11 記載の椅子。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、衣類等を掛け得るハンガーを具備する椅子に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、自席でデスクワークを行う際に、上着を脱いで自分の椅子の背凭れに掛けるということが行われていたが、その際に袖や裾が床にこすれて汚れる等の不具合が生じていた。これを解決するために、上着を掛けるためのハンガー部を背凭れに取り付けた椅子が種々開発されている。（例えば、特許文献 1 及び 2 参照。） 10

【0003】

【特許文献 1】

実開昭 48-48922

【特許文献 2】

特開 2000-116493

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、特許文献 1 記載の構成の椅子は、ハンガー部に衣服を掛ける際に、ハンガー部を固定しているネジを緩めてからハンガー部を上昇させるようにしていて、また、所望のハンガー部の高さ位置を得た段階でネジを締めてハンガー部を再び固定して保持させる必要がある。すなわち、少なくともハンガー部を再び固定して保持させる操作は両手を用いて行う必要がある。 20

【0005】

また、特許文献 2 記載の椅子では、ハンガー部に衣服を掛ける際に、アジャストレバーを押さえてラチェット爪とラチェット歯との係合を解除した状態でハンガー部を上昇させるようにしている。このように構成された椅子も、ハンガー部を上昇させる操作はアジャストレバーを押さえながら行う必要がある。すなわち、ハンガー部を上昇させて所望の位置に保持させる一連の操作には両手を用いる必要がある。 30

【0006】

しかし、このようにハンガー部の操作を両手を用いて行う必要がある構成においては、ハンガー部に掛ける衣服を脱いで片手に持ったままハンガー部を上昇させて保持させるための一連の操作を行うことが困難である。

【0007】

本発明は、以上に述べた課題を解決し、ハンガー部を上昇させて保持させるための一連の操作を片手により簡単な操作で行えるようにするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

すなわち本発明に係る椅子は、背もたれを有する椅子本体と、衣類等を掛けるよう構成されたハンガー本体を有し前記椅子本体に取り付けられるハンガー部とを具備するものであって、ハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置と、前記収納位置よりも上方に位置する使用位置とのいずれかにハンガー部を選択的に保持する機能を有するクリックストップ機構をさらに具備することを特徴とする。 40

【0009】

このように構成したものであれば、クリックストップ機構を機能させることによりハンガー部を前記収納位置又は前記使用位置に保持するようにできるので、ハンガー部を収納位置に保持させた状態を解除し、ハンガー部を上昇させて使用位置に保持させる一連の操作を、ハンガー部そのものを収納位置から引き出し、使用位置まで上昇させる簡単な操作により行うことができる構成を実現できるようになる。さらに、収納位置において、ハンガ 50

一本体の高さ位置を背もたれの上端と略同一にし、ハンガー本体と背もたれの上端とを近接させているので、ハンガー部に掛ける衣服を脱いで片手に持った状態でも、ハンガー本体を収納位置から引き出す操作を、背もたれの上端とハンガー本体とにそれぞれもう片方の手の指又は手首を掛け、背もたれの上端を支点としてハンガー本体に上昇させる力を加えることにより行うことができるようになる。すなわち、ハンガー部を上昇させて保持させるための一連の操作を片手により簡単な操作で行える構成を実現できるようになる。加えて、このように構成しているものであれば、ハンガー部を使用位置から収納位置まで移動させて収納位置に保持させることや、使用位置を複数設定した場合に使用位置間を昇降移動させて移動させた先の使用位置に保持させることも、ハンガー部そのものを片手で把持して昇降させる力を加え、ハンガー部を所望の位置まで移動させるだけの簡単な操作により行うことができる構成を実現できるようになる。 10

【0010】

上述した効果を得るための他の態様として、背もたれを有する椅子本体と、衣類等を掛けるよう構成されたハンガー本体を有し前記椅子本体に取り付けられるハンガー部とを具備するものであって、椅子本体に、ハンガー部を載置してハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置に保持する部位であるハンガー保持部を設けているとともに、前記収納位置よりも上方に位置する使用位置にハンガー部を保持する機能を有するクリックストップ機構をさらに具備することを特徴とするものが挙げられる。このように構成したものは、前段で述べた構成と比較して、前記収納位置と前記使用位置とのいずれかにハンガー部を選択的に保持する機能を有するクリックストップ機構を具備させる代わりに、椅子本体に、ハンガー部を載置してハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置に保持する部位であるハンガー保持部を設けているが、ハンガー部を収納位置に保持させた状態の解除は、ハンガー部そのものを持ち上げる簡単な操作により行うことができるからである。なお、ハンガー保持部は、ハンガー本体を保持するようにしてもよいし、ハンガー部のハンガー本体以外の箇所を保持するようにしてもよい。 20

【0011】

収納位置にあるハンガー部を引き上げて使用位置に移動させるように誘導するには、上述した構成に加えて、前記収納位置においてハンガー本体を前記背もたれと平面視略隙間なく配置すればよい。このように構成すれば、前記収納位置に保持させたハンガー部のハンガー本体は背もたれの上端に略隙間なく沿うので、前記収納位置にハンガー部を位置させた状態でハンガー本体に衣服を掛けると、椅子の背もたれに掛ける場合と同様の不具合が発生することが容易に認識されるからである。さらに、ハンガー本体と背もたれの上端とが一層近接するので、上述した背もたれの上端を支点としてハンガー部を収納位置から片手で引き上げる操作を一層容易に行うことができる。なお、本発明において「ハンガー本体を前記背もたれと平面視略隙間なく配置する」とは、ハンガー本体と背もたれとの間の空間の奥行き寸法が、一般的な衣類の厚さ以下であること全般を含む概念である。 30

【0012】

操作の利便性をさらに向上させるには、前記ハンガー本体を、背もたれの幅寸法の略全域にわたって設ければよい。背もたれの幅寸法のどの部分に手を掛けてもハンガー本体を把持してこのハンガー本体を引き上げるようにできるからである。 40

【0013】

ハンガー部の昇降動作をより簡単に行えるようにするには、ハンガー本体から下方に延伸して設けられ、このハンガー本体を支持するハンガー支柱を1本だけ設けるとよい。ハンガー支柱を複数設ける構成では、ハンガー支柱を同期して昇降させる必要があるが、このように構成するとハンガー支柱が1本であるのでハンガー支柱の昇降を同期させて行う必要がないからである。

【0014】

ハンガー部を押して椅子を動かそうとし、ハンガー部に無理な力がかかる不具合を起こりにくくするには、前記ハンガー支柱を可撓性のものにすればよい。このようにすれば、ハンガー部を前方に押すと椅子が移動し始めるより以前にハンガー支柱が撓むので、ハンガ 50

一部が椅子を移動させるための把手ではないことを容易に認識させることができるからである。また、このようにすれば、ハンガー本体に掛けた衣類を斜めに引っ張っても、ハンガー支柱がねじれて、つれてハンガー本体が向きを変えるので、ハンガー本体に掛けた衣類を取り出す際にハンガー本体に衣類が引っ掛かりにくくなるようにもできる。

【0015】

ハンガー部の昇降動作の便の更なる向上を図るには、前記ハンガー本体と前記ハンガー支柱とを一体に形成するとよい。このように構成すれば、ハンガー本体にハンガー部を昇降させる作用を加える際に、ハンガー本体とハンガー支柱との間にこれらを接合する部材がないので作用が直接ハンガー支柱に伝わり、効果的にハンガー部を昇降させることができるからである。

10

【0016】

衣類を着座者自身の背中で押さえて衣類に皺を作る不具合を起こりにくくするには、前記使用位置において、ハンガー本体を背もたれの背面よりも平面視後方に位置づければよい。このように構成すると、ハンガー部を使用位置に保持させた状態において、ハンガー本体に掛けた衣類をも背もたれの背面よりも平面視後方に位置づけることができるからである。

【0017】

このようなクリクストップ機構を簡単に実現するための構成として、前記ハンガー部をハンガー取付具を介して椅子本体に取り付けるように構成しているものであって、前記クリクストップ機構が、前記ハンガー取付具に設けた弾性力により進退可能な係止部材と、前記ハンガー支柱に設けた前記係止部材と係合する係止穴とを具備し、前記係止部材を前記係止穴と係合させることによりハンガー部を保持するようにしているとともに、ハンガー部を昇降させる力の一部を係止部材と係止穴との係合を解除させる力に変換するように構成しているものが挙げられる。

20

【0018】

簡単な構成でハンガー支柱を昇降させる力を係止部材と係止穴との係合を解除させる力として作用させるには、前記係止部材の前記係止穴と対向する部位を、テーパ状に形成すればよい。

【0019】

このようなハンガー部材を、誤って最も上方に位置する使用位置からさらに上方に引き上げて、ハンガー部材をハンガー取付具及び椅子本体から抜脱させてしまう誤操作を防ぐには、最も下方に位置する前記係止穴の下縁部を、この係止穴の上縁部及び他の係止孔の下縁部と比較して、より隆起させた形状に構成すればよい。

30

【0020】

前段で述べた構成に加えて、最も下方に位置する前記係止穴の下縁部をテーパ状に形成しているものであれば、衣類が強い力で無理に上方に引張られた場合に、衣類の上方への移動に追従してハンガー部がハンガー取付具及び椅子本体から抜脱するようにできるので、衣類が破れる不具合の発生を抑えることができる。

【0021】

種々の衣類をハンガー本体に好適に掛けることができるようにするには、高さ位置の異なる複数の使用位置を設定すればよい。このようにすれば、衣類の長さに応じて好適な高さ位置を有する使用位置を選択してハンガー部を保持させるようにできる。しかも、それぞれの使用位置においてハンガー部をクリクストップ機構により保持させているので、使用位置の切り替えを簡単に行うことができるようになる。

40

【0022】

なお、本発明においては、本発明に係る椅子の着座者が向かう方向を前方とする。

【0023】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。

【0024】

50

本実施形態に係る椅子Cは、図1に正面図、図2に背面図、図3に側面図、図4に平面図をそれぞれ示すように、背もたれ13を有する椅子本体1と、この椅子本体1、本実施形態では背もたれ13に取り付けられるハンガー部2とを具備する。

【0025】

前記椅子本体1は、脚11と、脚11に支持させた座12と、この座12の後方から起立する背もたれ13と、座12の側方から起立させた肘14とを具備し、オフィス等において従来用いられている椅子として周知のものと同様に構成されている。なお、本実施形態では背もたれ13の背面は後方に向かって膨出した形状をなしている。

【0026】

前記ハンガー部2は、図5に示すように、ハンガー本体21と、このハンガー本体21の幅方向中央部の下端から鉛直下方に延伸して設けられている1本のハンガー支柱22とを具備する。そして、前記図1～図4の想像線に示す収納位置Nと、前記図1～図4の実線に示す使用位置Uとのいずれかに選択的に保持される。さらに、本実施形態では、このハンガー部2は、合成樹脂、本実施形態ではポリプロピレンによりハンガー本体21とハンガー支柱22とを一体に形成している。なお、前記図5において、(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は平面図である。

【0027】

前記ハンガー本体21は、前記図1、図2、及び図4に示すように背もたれ13の幅寸法の略全域にわたって設けられ、背もたれ13の背面に略隙間なく当接可能な形状、すなわち背もたれの背面と略同一の曲率で後方に向かって膨出した形状をなしている。また、その厚さ寸法を左右両端部から幅方向中央部に向けて滑らかに増大させている。

【0028】

前記ハンガー支柱22は、上述したようにポリプロピレンを用いて形成され、ハンガー本体21の幅方向中央部の下端から鉛直下方に延伸して設けられていて、前後方向を向く板状をなす。また、その前面の左右両側端には、長手方向、すなわち上下方向に伸びる突条22aが2本ずつ設けてある。さらに、このハンガー支柱22は、可撓性を有する。すなわち、ハンガー本体21を前後に移動させる力が加えられると、このハンガー支柱22は力を加えられた方向に撓む。また、ハンガー本体21の側端部を前方又は後方に移動させるような力が加えられると、このハンガー本体21が追随して向きを変えるようにすべく、ハンガー支柱22がねじれる。但し、このハンガー支柱22は一般的な体格を有する成人用の衣類をハンガー本体21に掛けた場合には撓まない程度の剛性を備えている。

【0029】

前記ハンガー部2は、本実施形態では、ハンガー取り付け具3を介して前記椅子本体1の背もたれ13に昇降可能に取り付けられている。このハンガー取付具3は、背もたれ13の背面13aかつ上端13x近傍にその前面を当接させて取り付けられるベース31と、前方に開口したチャンネル状をなし、前記ベース31の後方に取り付けられるブラケット32と、前記ベース31及び前記ブラケット32を後方及び両側方から包囲して外部から隠蔽するハンガー取付具カバー33とを具備する。

【0030】

ベース31は、図6に示すように、板状をなす取付部311と、この取付部311の上端から後上方に起立する上板312と、前記取付部311及び前記上板312の後面から後方に突出して設けられ、後述する係止部材34を取り付ける係止部材取付台313とを具備し、取付部311の前面を背もたれ13の背面に取り付けるようにしている。また、前記係止部材取付台313の幅寸法は、前記ハンガー支柱の内側の突条22a間の寸法と略一致させてある。本実施形態では、このベース31は、硬質プラスチックにより形成されている。なお、前記図6において、(a)は正面図、(b)は背面図、(c)は側面図、(d)は平面図、(e)は底面図である。

【0031】

ブラケット32は、図7に示すように、前方に開口したチャンネル状をなし、前記ベース31の後方に取り付けられる。また、本実施形態では板金加工により形成されている。具体

的には、前記ベース 3 1 の取付部 3 1 1 及び係止部材取付台 3 1 3 に対向する背板 3 2 1 と、背板 3 2 1 の左右両端と前記ベース 3 1 の取付部 3 1 1 の左右両端とをそれぞれ接続する形状の側板 3 2 2 と、側板 3 2 2 の前端の上下両端近傍を内方に屈曲して設けられ、前記ベース 3 1 の取付部 3 1 1 に当接するとともに雌ネジ孔 3 2 a を有する取付部 3 2 3 とを有する。そして、椅子 C の上部の中央側断面図である図 8 及び図 9 に示すように、前記背板 3 2 1 とベース 3 1 との間の空間にハンガー支柱 2 2 を挿し通すようにしている。すなわち、ハンガー支柱 2 2 はこのハンガー取付具 3 の後部に挿し通される。また、前記雌ネジ孔 3 2 a を、前記図 6 に示す前記ベース 3 1 の前板 3 1 1 に設けたネジ挿通孔 3 1 x と重合させ、図示しない雄ネジ部材を前記雌ネジ孔 3 2 a にネジ止めすることにより、これらベース 3 1 及びブラケット 3 2 を背もたれ 1 3 に取り付けるようにしている。なお、前記図 7 において、(a) は正面図、(b) は側面図、(c) は平面図である。図 8 はハンガー部 2 を収納位置 N に保持した状態の中央側断面図、図 9 の実線はハンガー部 2 を使用位置 U に保持した状態の中央側断面図である。さらに、図 8 及び図 9 において、背もたれ 1 3 は想像線により示しているとともに、図 9 には想像線により収納位置 N に保持されたハンガー部 2 も示している。

【0032】

ハンガー取付具カバー 3 3 は、図 10 に示すように、前記ベース 3 1 及びブラケット 3 2 の側方を隠蔽する側枠 3 3 1 と、前記ベース 3 1 及びブラケット 3 2 の上方を隠蔽する上枠 3 3 2 と、前記ベース 3 1 及びブラケット 3 2 の下方を隠蔽する底枠 3 3 3 と、前記ベース 3 1 及びブラケット 3 2 の後方を隠蔽する背枠 3 3 4 とを具備し、合成樹脂により形成されている。そして、この上枠 3 3 2 及び底枠 3 3 3 の、平面視ハンガー支柱 2 2 に対応する部分には、このハンガー支柱 2 2 を挿し通すハンガー支柱挿通口 3 3 a が設けてある。すなわち、このハンガー支柱挿通口 3 3 a は、ハンガー取付具 3 の後部に設けられている。さらに、このハンガー支柱挿通口 3 3 a の形状は、ハンガー支柱 2 の平断面形状に略対応させている。なお、前記上枠 3 3 2 は、前記ベースの上板 3 1 2 と略面一に構成している。一方、側枠 3 3 1 の前端部には係合爪 3 3 b が設けてあり、この係合爪 3 3 b をベース 3 1 の取付部 3 1 1 の前面に設けた係合凹部 3 1 b と係合させ、前記ベース 3 1 及び前記ブラケット 3 2 の後方から嵌め込むことにより取り付けるようにしている。また、前記背枠 3 3 4 の前面の中央部には、高さ方向に伸びるリブ 3 3 c が設けてある。このリブ 3 3 c の上端及び下端はテーパ状に形成している。そして、前記ブラケット 3 2 の背板 3 2 1 の中央部には円形の位置決め孔 3 2 b を設けていて、このハンガー取付具カバー 3 3 を嵌め込む際に、テーパ状に形成した前記リブ 3 3 c の上端又は下端が前記位置決め孔 3 2 b の端縁に当接して、ハンガー取付具カバー 3 3 の取付位置に誘導するようにしている。なお、前記図 10 において、(a) は正面図、(b) は側面図、(c) は平面図である。また、ベース 3 1 を背もたれ 1 3 に一体に設けるとともに、カバーとしての機能をも有するブラケットを背もたれ 1 3 に取り付ける態様も考えられる。

【0033】

しかして本実施形態では、このハンガー部 2 を、前記図 1 ～図 3 及び図 9 の想像線に示すようにハンガー本体 2 1 の高さ位置を背もたれ 1 3 の上端 1 3 x と略一致させている収納位置 N と、前記図 1 ～図 3 及び図 9 の実線に示すように前記収納位置 N よりも上方に位置する使用位置 U とのいずれかに選択的に保持する機能を有するクリックストップ機構 C S をさらに具備する。本実施形態では、前記図 4 に示すように、前記収納位置 N において、ハンガー本体 2 1 を前記背もたれ 1 3 と平面視略隙間なく配置している。一方、前記使用位置 U においては、ハンガー本体 2 1 が背もたれ 1 3 の上端 1 3 x より上方に位置し、図 3 に示すように、ハンガー本体 2 1 を、床面から衣類 C L の袖や裾が床面にこすれない程度に高さ方向に離間させているとともに、ハンガー本体 2 1 を背もたれの背面 1 3 a よりも後方に位置づけている。

【0034】

具体的には、前記クリックストップ機構 C S は、前記ハンガー部 2 と前記ハンガー取付具 3 との間、より正確には前記ハンガー支柱 2 2 と前記ハンガー取付具 3 との間に設けてい

るものであり、前記図 8 及び図 9 に示すように、前記ハンガー支柱 2 2 の上端近傍に設けた上係止穴 2 2 x 1 と、前記ハンガー支柱 2 2 の下端近傍に設けた下係止穴 2 2 x 2 と、ハンガー取付具 3 に設けた弾性力により進退可能な係止部材 3 4 とを具備する。そして、前記係止部材 3 4 を弾性力により上係止穴 2 2 x 1 又は下係止穴 2 2 x 2 に係合させることにより、クリックストップ機構 C S が機能するようにしている。すなわち、前記係止部材 3 4 を弾性力により上係止穴 2 2 x 1 に係合させることにより、ハンガー部 2 を前記収納位置 N に保持しているとともに、前記係止部材 3 4 を弾性力により下係止穴 2 2 x 2 に係合させることにより、ハンガー部 2 を前記使用位置 U に保持している。ここで、上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 は、請求項中の係止穴として機能する。

【0035】

10

さらに詳述すると、前記上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 は、前記図 5、図 8、及び図 9 に示すように、本実施形態では略すり鉢状に形成している。すなわち、この上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 の上縁部を上前方に傾斜させてテーパ状に形成しているとともに、これら上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 の下縁部を下前方に傾斜させてテーパ状に形成している。また、本実施形態では、下係止穴 2 2 x 2 の下縁部は、この下係止穴 2 2 x 2 の上縁部及び前記上係止穴 2 2 x 1 の下縁部と比較してより隆起させた形状に構成している。

【0036】

係止部材 3 4 は、本実施形態では、図 1 1 に示すように、略前後方向に伸びる円筒状をなす基部 3 4 b と、頂点が略後方に向かう略円錐状をなす先端部 3 4 a とを具備し、前記図 8 及び図 9 に示すように、基部 3 4 b にバネ S の一端を挿入するようにしているとともに、バネ S の他端を前記ベース 3 1 の係止部材取付口 3 1 a の底面に当接させている。また、本実施形態では、前記先端部 3 4 a の内部には、断面形状が十字状をなすリブ 3 4 x を、先端から基端に向けて前記基部 3 4 b との境界近傍まで延伸して設けていて、バネ S の一端をこのリブ 3 4 x に当接させている。そして、先端部 3 4 a は、バネ S の弾性力により常にハンガー支柱 2 2 に当接するように構成していて、前記収納位置 N 及び前記使用位置 U においては、先端部 3 4 a が上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 にそれぞれ対向した状態でこれらを係合させるようにしている。すなわち、この係止部材 3 4 は、上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 と対向する部分をテーパ状に形成している。なお、前記図 1 1 において、(a) は平面図、(b) は正面図である。

20

30

【0037】

さらに本実施形態では、ハンガー部 2 を収納位置 N から使用位置 U へ移動させ、又はその逆方向にスライドさせて移動させる際に、弾性力によりハンガー支柱 2 2 に常にハンガー支柱 2 2 に当接するように構成されている係止部材 3 4 を移動方向ガイドとして利用すべく、係止部材 3 4 が当接する部位、すなわちハンガー支柱 2 2 の前面の幅方向中央部に、上係止穴 2 2 x 1 の下縁から下係止穴 2 2 x 2 の上縁近傍にかけて、ガイド溝 2 2 m が設けてある。すなわち、ハンガー部 2 を昇降させる際には、係止部材 3 4 がガイド溝 2 2 m に当接するようにしている。但し、下係止穴 2 2 x 2 の上縁近傍においては、ハンガー支柱 2 2 の前面の幅方向中央部は前下方に向けて傾斜している。すなわち下係止穴 2 2 x 2 に近づくにつれて次第に深さを減じている。そして、下係止穴 2 2 x 2 の上縁では、ハンガー支柱 2 2 の前面の幅方向中央部は、逆に左右両側の係止部材 3 4 が当接しない部分よりも前方に隆起している。加えて、このハンガー支柱 2 2 をハンガー取付具 3 に上方から嵌め入れることによりハンガー部 2 を椅子本体 1 に取り付けられるようにすべく、ハンガー支柱 2 2 の前面下端部の幅方向中央部を後下方に向けて傾斜させて、取付ガイド部 2 2 g を形成している。

40

【0038】

このようにして構成したクリックストップ機構 C S は、前記図 8 に示すように、ハンガー支柱 2 2 の上係止穴 2 2 x 1 に係止部材 3 4 を係合させた状態で前記収納位置 N に保持するようにしているとともに、前記図 9 の実線に示すように、ハンガー支柱 2 2 の下係止穴 2 2 x 2 に係止部材 3 4 を係合させた状態で前記使用位置 U に保持するようにしている。

50

【0039】

ハンガー部2に、前記図8に示す収納位置Nから引き上げる力を加えると、上係止穴22x1の下縁部を介して係止部材34の下縁部に引き上げ力が伝達される。このとき、係止部材34の下端部は前上方に向かって傾斜しているとともに、この係止部材33と上係止穴22x1の下縁部とがテーパ係合しているので、前記引き上げ力の一部は係止部材34を退避させる力に変換される。そして、この力を受けてバネSが圧縮されて係止部材34が退避し、係止部材34と上係止穴22x1との係合が解除される。そして、ハンガー支柱22をさらにスライドさせて引き上げ、ハンガー支柱22の下係止穴22x2の高さ位置と係止部材34の高さ位置とを一致させると、前記バネSの弾性力により係止部材34が前方に押し出されて前記下係止穴22x2に係合することにより、クリップストップ機構CSが機能し、ハンガー部2が使用位置Uに保持される。なお、前記下係止穴22x2の下縁部は、前記下係止穴22x2の上縁部及び前記上係止穴22x1の下縁部と比較してさらに前方に隆起させて構成しているので、ハンガー部2を使用位置Uを越えて上昇させるには、前記下係止穴22x2の上縁部及び前記上係止穴22x1の下縁部を越えてハンガー部2を移動させるよりも強い操作力を必要とする。

【0040】

また、ハンガー本体21またはハンガー支柱22に、前記図9の実線に示す使用位置Uから押し下げる力を加えると、下係止穴22x2の上縁部を介して係止部材34の上縁部に押し下げ力が伝達される。しかして、下係止穴22x2の上縁部は前上方に向かって傾斜しているとともに、係止部材34の上縁部がこの下係止穴22x2の上縁部にテーパ係合しているので、前記引き上げ力の一部は係止部材34を退避させる力に変換される。そして、この力を受けてバネSが圧縮され、係止部材34が退避して、係止部材34と下係止穴22x2との係合が解除される。そして、ハンガー支柱22をさらにスライドさせて押し下げ、ハンガー支柱22の上係止穴22x1の高さ位置と係止部材34の高さ位置とが一致すると、前記バネSの弾性力により係止部材34が前方に押し出されて前記上係止穴22x1に係合することによりクリップストップ機構CSが機能し、ハンガー部2が前記図9の想像線に示す収納位置Nに保持される。

【0041】

以上に述べたように、本実施形態に係る椅子Cは、ハンガー部2を、ハンガー本体21の高さ位置が背もたれ13の上端13xと略同一である収納位置Nと、ハンガー本体21がこの収納位置Nよりも上方に位置する使用位置Uとのいずれかに選択的に保持させる機能を有するクリップストップ機構CSを具備する。したがって、ハンガー部2そのものを昇降させるだけの簡単な操作により、ハンガー部2を収納位置Nから引き出して使用位置Uに位置させることや、使用位置Uから押し下げて収納位置Nに収納することができるようになる。また、収納位置Nにおいて、ハンガー本体21の高さ位置を背もたれ13の上端13xと略同一とし、ハンガー本体21を背もたれ13の上端13xと近接させているので、ハンガー本体21に掛ける衣類CLを脱いで片手で持った状態でも、ハンガー部2を収納位置Nから引き出す際に、背もたれ13の上端13xとハンガー本体21とにそれぞれもう片方の手の指又は手首を掛け、背もたれ13の上端13xを支点としてハンガー部2を使用位置Uに向けて上昇させる一連の操作を容易に行うことができる。

【0042】

さらに、収納位置Nにおいて、ハンガー本体21と背もたれ13とを平面視略隙間なく配置していることから、収納位置Nにおいては、ハンガー本体21が背もたれ13の上端13xに略隙間なく沿うので、収納位置Nに保持させたハンガー部2のハンガー本体21に衣服を掛けると、背もたれ13に掛ける場合と同様の不具合が発生することが容易に認識され、ハンガー部2を引き上げて使用位置Uに移動させるように誘導できる。加えて、ハンガー本体21が背もたれ13の上端13xに略隙間なく沿っているため、上述したような片手で背もたれ13の上端13xを支点としてハンガー部2を使用位置Uに向けて上昇させる操作を非常に簡単に行うことができる。

【0043】

加えて、前記ハンガー本体 2 1 を背もたれ 1 3 の幅寸法の略全域にわたって設けているので、背もたれ 1 3 の幅寸法のどの部分に手を掛けても、ハンガー本体 2 1 を把持してこのハンガー本体 2 1 を引き上げるようにできる。

【0044】

また、ハンガー支柱を複数設ける構成では、ハンガー支柱を同期して昇降させる必要があるが、本実施形態では、ハンガー本体 2 1 からハンガー支柱 2 2 を 1 本だけ下方に延伸して設けているので、ハンガー支柱 2 2 の昇降を同期させて行う必要がなく、したがって、ハンガー部 2 の昇降動作をより簡単に行うようにすることができる。

【0045】

さらに、前記ハンガー支柱 2 2 を可撓性のものにしてしているので、ハンガー部 2 を押すと椅子 C 全体が移動する前にハンガー支柱 2 2 がねじれたり曲がったりする。したがって、ハンガー部 2 が椅子 C の移動操作部として誤解されにくい。すなわち、ハンガー部 2 を押して椅子 C を移動させようとし、ハンガー部 2 の特にハンガー本体 2 1 とハンガー支柱 2 2 との境界付近に無理な力がかかる不具合が起こりにくい。また、ハンガー本体 2 1 に掛けた衣類 C L を斜めに引っ張っても、ハンガー本体 2 1 の向きを追随して変えるべくハンガー支柱 2 2 がねじれるので、ハンガー本体 2 1 に衣類 C L が引っ掛かる不具合も起こりにくい。

【0046】

加えて、前記ハンガー本体 2 1 と前記ハンガー支柱 2 2 とを一体に形成しているので、ハンガー本体 2 1 のどの部位にハンガー部 2 を昇降させる作用を加えても、ハンガー本体 2 1 とハンガー支柱 2 2 との間にこれらを接合する部材がないので作用が直接ハンガー支柱 2 2 に伝わり、効果的にハンガー部 2 を昇降させることができ、ハンガー部 2 の昇降動作の便の更なる向上を図ることができる。

【0047】

また、前記使用位置 U では、ハンガー本体 2 1 を背もたれの背面 1 3 a よりも後方に位置づけているので、この使用位置 U においてはハンガー本体 2 1 にかけた衣類 C L をも図 3 及び図 9 に示すように背もたれの背面 1 3 a よりも後方に位置づけられ、衣類 C L が着座者の背中で押さえられて衣類 C L に皺ができる不具合が起こりにくい。

【0048】

さらに、クリックストップ機構 C S が、前記ハンガー取付具 3 に設けた弾性力により進退可能な係止部材 3 4 と、前記ハンガー支柱 2 2 に設けられ、前記係止部材 3 4 と係合する上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 とを具備するとともに、前記係止部材 3 4 を前記上係止穴 2 2 x 1 又は下係止穴 2 2 x 2 と係合させることによりハンガー部 2 を保持するように構成されているので、弾性力により係止部材 3 4 を上係止穴 2 2 x 1 又は下係止穴 2 2 x 2 に係合した状態に保持し、またハンガー部の引き上げ操作により係止部材 3 4 を上係止穴 2 2 x 1 又は下係止穴 2 2 x 2 から退避させるようにして、このようなクリックストップ機構 C S を簡単な構成で実現できる。

【0049】

特に、本実施形態では前記係止部材 3 4 の前記上係止穴 2 2 x 1 又は下係止穴 2 2 x 2 と対向する部位をテーパ状に形成しているので、簡単な構成でハンガー部 2 を昇降させる力を、係止部材 3 4 を退避させ、上係止穴 2 2 x 1 及び下係止穴 2 2 x 2 との係合を解除させる力に変換することができる。

【0050】

さらに、ハンガー支柱 2 2 の下係止穴 2 2 x 2 の下縁部を、この下係止穴 2 2 x 2 上縁部、及び上係止穴 2 2 x 1 の下縁部よりも隆起させて形成しているので、このようなハンガー部材 2 を、誤って使用位置 U からさらに上方に引き上げても、この下係止穴 2 2 x 2 の下縁部を越えて移動させるには、下係止穴 2 2 x 2 上縁部、及び上係止穴 2 2 x 1 の下縁部を越えて移動させるよりも強い操作力をハンガー部 2 に加える必要があり、このハンガー部 2 がハンガー取付具 3 及び椅子本体 1 から抜脱させる誤操作の発生を抑えることができる。

【0051】

一方、図8及び図9に示すように、ハンガー支柱22の下係止穴22x2の下縁部はテーパー状に形成しているので、衣類CLが強い力で無理に上方に引張られた場合には、衣類CLの上方への移動に追従してハンガー部2がハンガー取付具3及び椅子本体1から抜脱し、衣類CLが破れる不具合の発生を抑えるようにしている。

【0052】

加えて、前記クリックストップ機構CSをハンガー支柱2の前方に設けているので、ハンガー取付具3の側方や後方にクリックストップ機構CSのためのスペースが必要なく、ハンガー取付具3の見栄えを整えることができる。

【0053】

なお、本発明は以上に述べた実施形態に限られない。

【0054】

例えば、上述した実施形態において、ハンガー部を前記収納位置又は使用位置に選択的に保持するクリックストップ機構を具備させる代わりに、椅子本体に、ハンガー部を載置してハンガー本体の高さ位置が背もたれの上端と略同一である収納位置に保持する部位であるハンガー保持部を設けるとともに、前記収納位置よりも上方に位置する使用位置にハンガー部を保持する機能を有するクリックストップ機構を具備する構成を採用してもよい。このような構成を得るためには、ハンガー取付具をハンガー保持部としても機能するようにしてもよいし、背もたれから突出してハンガー保持部を別に設けてもよい。

【0055】

このようなものであっても、ハンガー部を収納位置に保持させた状態の解除は、ハンガー部そのものを持ち上げる簡単な操作により行うことができ、したがって、上述した実施形態により得られる効果は全て得られる。

【0056】

また、使用位置は複数箇所に設けてもよい。この場合、ハンガー本体の高さ位置を、このハンガー本体に掛ける衣類の長さ寸法に応じてより好適な位置に設定することができる。このような効果を実現させる構成として、例えば、上述した実施形態における係止穴を、ハンガー部を各使用位置に保持させる箇所にそれぞれ設ける構成が考えられる。

【0057】

加えて、クリックストップ機構も、少なくともハンガー部を使用位置に保持可能なものであればどのように構成してもよい。例えば、ハンガー部を保持する係止部材は、基部をばねに接続してばねの弾性力により進退する構成以外に、ハンガー部が昇降すると係止部材自体が弾性変形してハンガー部材に設けた係止穴から退避するように構成する態様も考えられる。この場合、係止部材及び係止穴は必ずしもテーパー係合する必要はない。一方、係止部材は、前後方向でなく、例えば左右方向に進退するようにしてもよい。この場合、例えばハンガー支柱の左右両側面に係止穴を設けるとともに、左右の係止穴にそれぞれ係止部材を係合させてハンガー部を保持させるようにする態様が考えられる。さらに、係止穴をハンガー支柱の背面に設けるとともに、係止部材をハンガー支柱の後方に位置させる態様もまた考えられる。この場合、上述した実施形態においてベースを前後逆にしてブラケットに取り付け、またはブラケットと一体に形成する態様が一例として考えられる。これらの場合、ハンガー支柱はハンガー取付具の後端部に挿し通す態様をとる必要はない。

【0058】

また、ハンガー本体を、衣類を斜めに引っ張っても衣類の袖が引っかからないような形状や、ハンガー部を押して椅子を移動させ得ないような形状に形成して、ハンガー支柱を可撓性でないものに構成してもよい。

【0059】

一方、ハンガー支柱を複数設けた上で、ハンガー支柱の左右移動を規制する部材を別に設ける等、複数のハンガー支柱が必ず同期して昇降するように構成してもよい。

【0060】

そして、誤って収納位置に保持させた状態のハンガー本体に衣類を掛けないように誘導す

10

20

30

40

50

るよう構成したものであれば、収納位置において背もたれとハンガー本体との間に平面視空間が存在するように構成してもよい。

【0061】

加えて、ハンガー取り付け具は、上述した実施形態で述べた以外のものであっても、椅子本体にハンガー部を取り付け可能なものであればよく、さらに椅子本体にハンガー部を取り付けるハンガー取付部を形成し、クリックストップ機構をハンガー取り付け部とハンガー部との間に設けても構わない。

【0062】

その他、本発明の趣旨を損ねない範囲で種々に変形してよい。

【0063】

【発明の効果】

本発明に係る椅子は、クリックストップ機構を機能させることによりハンガー部を前記収納位置又は使用位置に選択的に保持するようにでき、あるいは椅子本体のハンガー部を載置して保持する部位であるハンガー保持部にハンガー部を載置させて前記収納位置にハンガー部を保持するとともに前記使用位置に前記クリックストップ機構を機能させて保持するようにできる。したがって、ハンガー部を収納位置に保持させた状態を解除し、ハンガー部を上昇させて使用位置に保持させる一連の操作を、ハンガー部そのものを収納位置から引き出し、使用位置まで上昇させる簡単な操作により行うことができる構成を実現できる。さらに、収納位置において、ハンガー本体の高さ位置を背もたれの上端と略同一にし、ハンガー本体と背もたれの上端とを近接させているので、ハンガー部に掛ける衣服を脱いで片手に持った状態でも、ハンガー本体を収納位置から引き出す操作を、背もたれの上端とハンガー本体とにそれぞれもう片方の手の指又は手首を掛け、背もたれの上端を支点としてハンガー本体に上昇させる力を加えることにより行うことができる。すなわち、ハンガー部を上昇させて保持させるための一連の操作を片手により簡単な操作で行える構成を実現できる。

【0064】

加えて、このように構成しているものであれば、ハンガー部を使用位置から収納位置まで移動させて収納位置に保持させることや、使用位置を複数設定した場合に使用位置間を昇降移動させて移動させた先の使用位置に保持させることも、ハンガー部そのものを片手で把持して昇降させる力を加え、ハンガー部を所望の位置まで移動させるだけの簡単な操作により行うことができる構成を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る椅子の正面図。

【図2】同実施形態に係る椅子の背面図。

【図3】同実施形態に係る椅子の側面図。

【図4】同実施形態に係る椅子の平面図。

【図5】同実施形態に係る椅子に用いられるハンガー本体を示す図。

【図6】同実施形態に係る椅子に用いられるハンガー取付具のベースを示す図。

【図7】同実施形態に係る椅子に用いられるハンガー取付具のブラケットを示す図。

【図8】同実施形態に係る椅子のハンガー部を収納位置に保持した状態のハンガー部付近の中央側断面図。

【図9】同実施形態に係る椅子のハンガー部を使用位置に保持した状態のハンガー部付近の中央側断面図。

【図10】同実施形態に係る椅子に用いられるハンガー取付具カバーを示す図。

【図11】同実施形態に係る椅子に用いられる係止部材を示す図。

【符号の説明】

C…椅子

1…椅子本体

13…背もたれ

13a…背もたれの背面

10

20

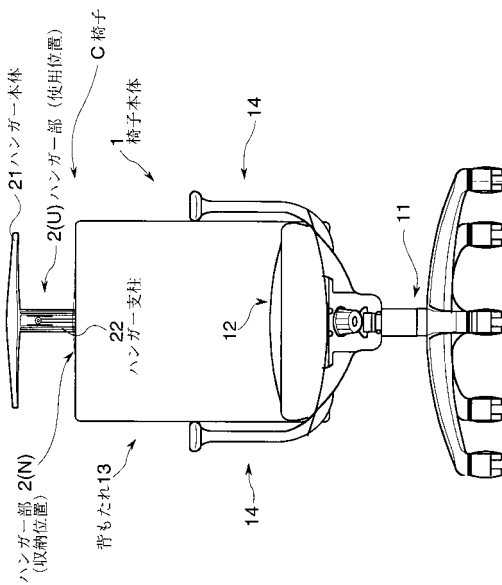
30

40

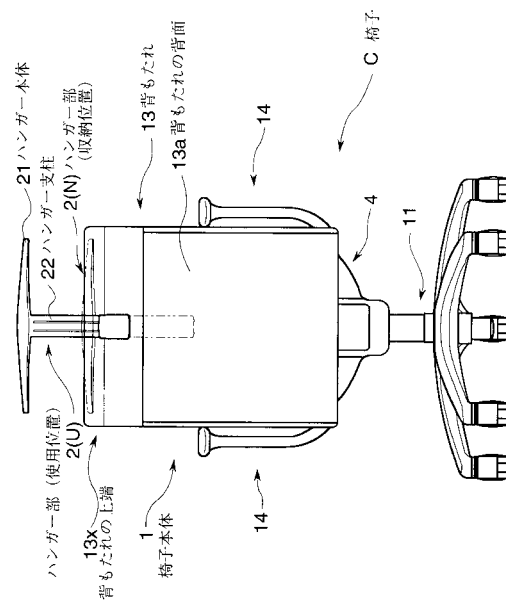
50

- 1 3 x … 背もたれの上端
 2 … ハンガー部
 2 1 … ハンガー本体
 2 2 … ハンガー支柱
 2 2 x 1 … 上係止穴（係止穴）
 2 2 x 2 … 下係止穴（係止穴）
 3 … ハンガー取付具
 3 4 … 係止部材
 3 4 a … 係止部材の先端部（係止部材の係止穴と対向する部位）
 S … バネ
 C S … クリックストップ機構
 C L … 衣類
 N … 収納位置
 U … 使用位置

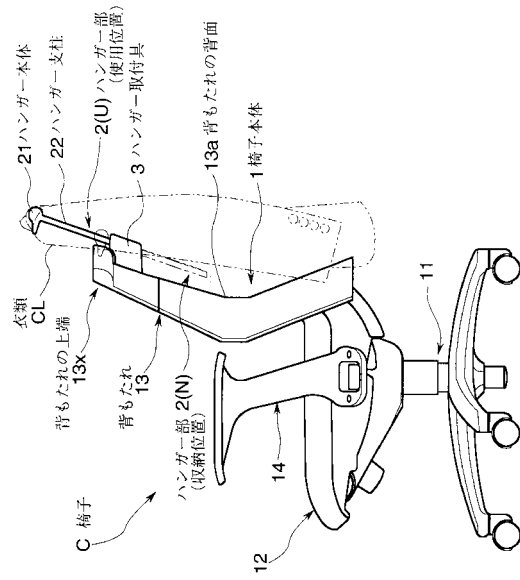
【図 1】



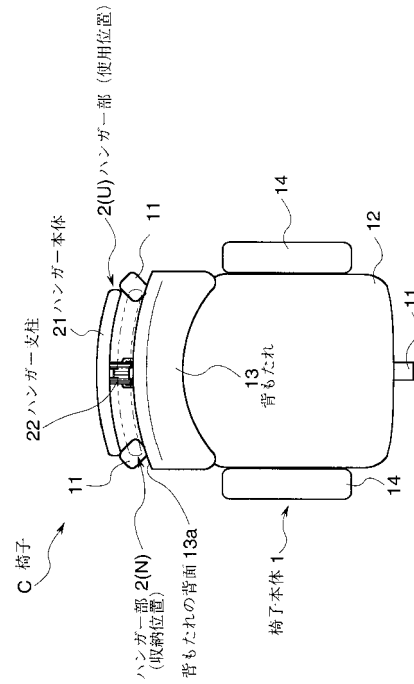
【図 2】



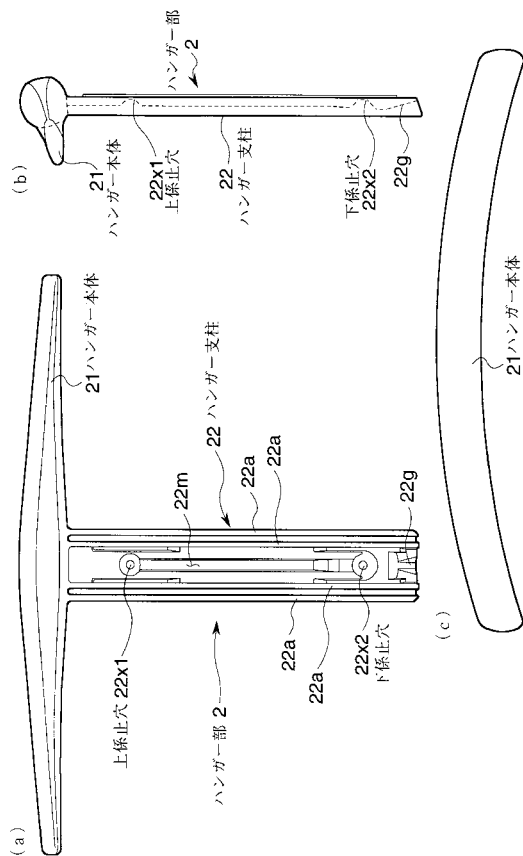
【図 3】



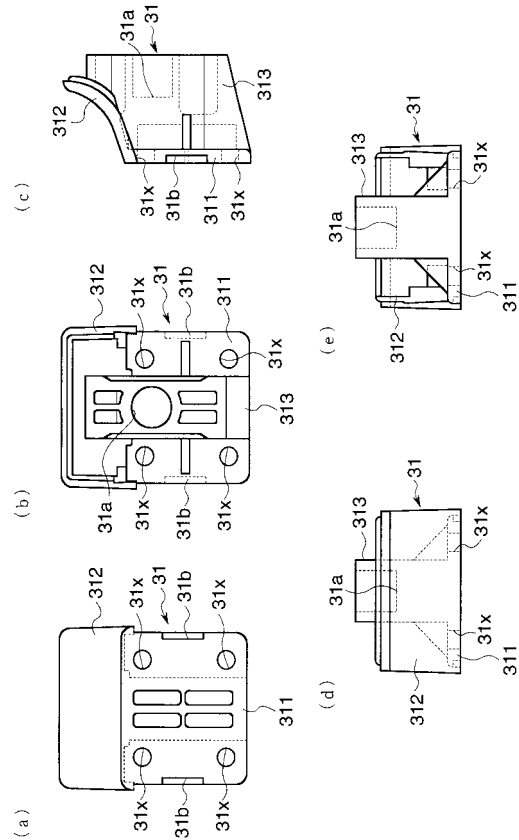
【図 4】



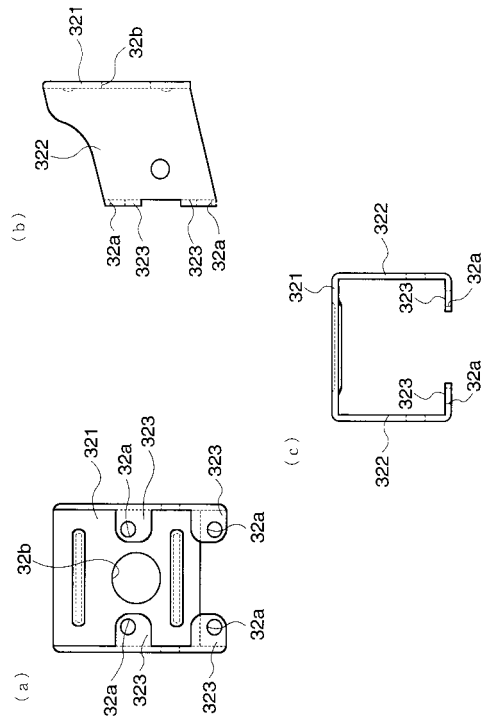
【図 5】



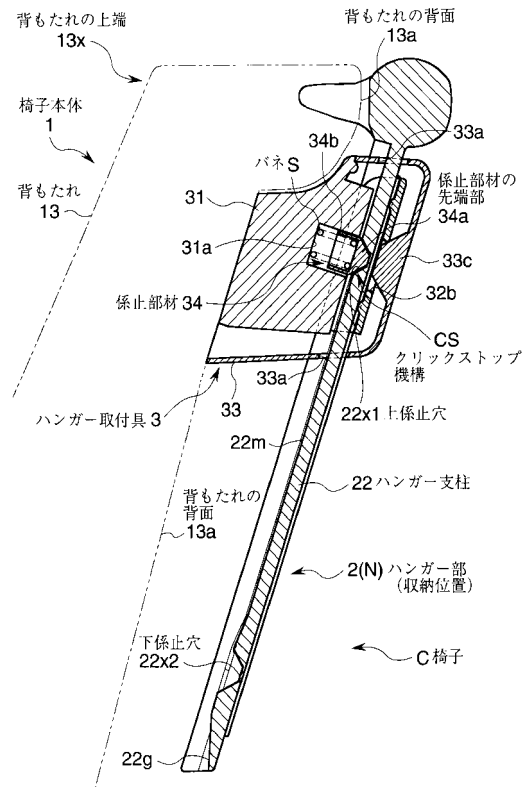
【図 6】



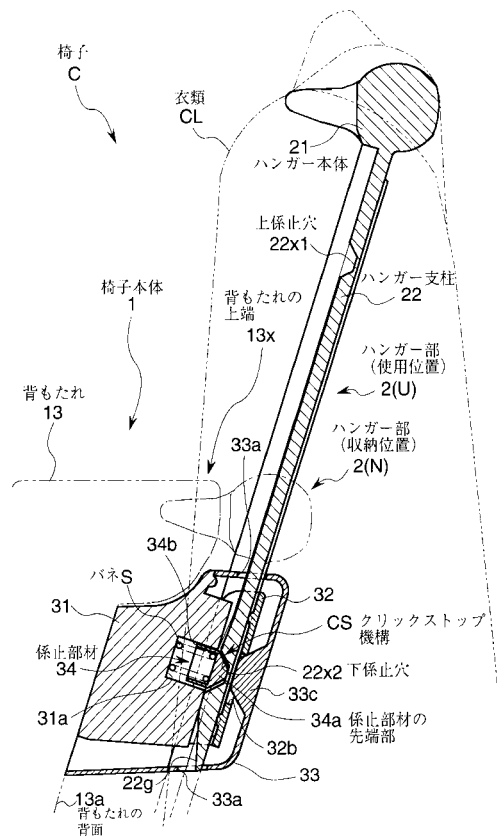
【図 7】



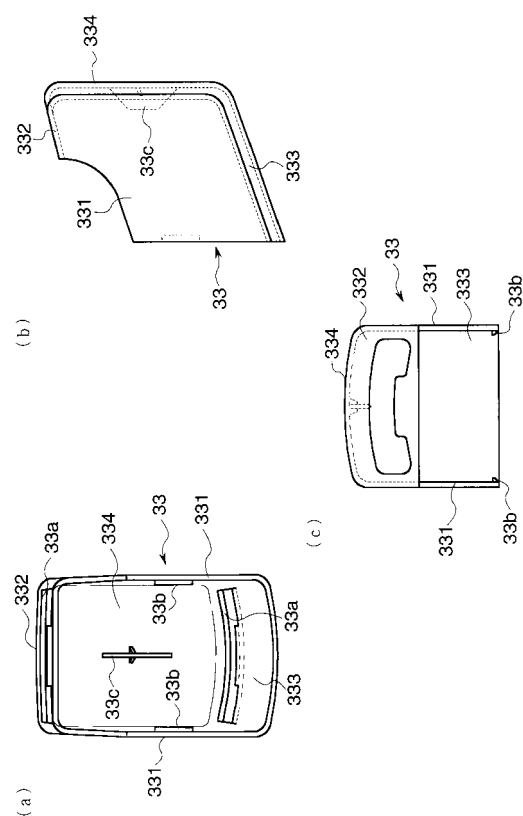
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

